

協働のまちづくり説明会記録(東地区)

《開 会》

《説明者等紹介・日程説明》

《市民活動推進課説明》

①地域ですすめるまちづくりについて

(協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について)

《①に対しての質疑応答》

- ・平成27年度以降の地区社会教育主事などの人的支援や、地区社教に対する財政支援はどうなるのか。また、新しい組織化により、予算の嵩上げはあるのか。

地区社会教育主事のあり方は現在検討中であり、地域をコーディネートできる人材が求められると考える。自主運営組織の設立にあたって、地区社教と別にするのか、ベースにするのかは地域の実態に応じて決めていただければよい。財政支援は地域への一括にしたいと考える。嵩上げ部分は検討中である。

- ・平成27年度に具体的に組織が変わる方向であると感じている。地区社会教育主事は当初は正職員であったが、その後、嘱託職員へと変わってきた。人的支援は今後も継続してほしい。

目標としては平成27年4月からスタートしたいと考えているが、地域の実情もあるため前後する場合もあり得る。それぞれの組織における事業の振り替えもあり、新組織の中で事業経費の配分も検討できる仕組みを考えている。

- ・自主運営組織の拠点となる場所はどこを考えているのか。

場所は検討中であるが、基本的には現在ある社教ルームを考えている。

- ・地区社教を拡充して自主運営組織になり得るのか。支所地域と高山地域には違いがあり、地区社教のあり方が根底から変わってくる。

地域により組織構成に違いがあるため、地域にあった方法で決めてほしい。

- ・イメージは分かるが、誰が人づくりをすすめるのか。地域に任されても困る。現在の活動自体が協働であり、見直す必要があるのか。町内会長も毎年交代する中で地区社会教育主事に頼るところが多く、何からやってよいのか分からない。
- ・他地区(大八地区)に社教ルームがあるのは東地区だけである。地域の会議は煥章館で行っているため、社教ルームがある東小学校で行うとクレームがくる。役員のなり

手もないため、活動拠点となる場所が地域内にほしい。

地区社教が新組織の母体となる可能性は十分ある。場所も含めてみなさんと一緒に今後検討する。

・ 今後のすすめ方はどうなるのか。

地域によっては議論が進んでいるところもある。他地域の情報も収集し、情報提供
する中で議論を深めていただきたい。

《企画課説明》

②行政ですすめるまちづくりについて

（市民参加条例（仮称）の制定に向けて）

《②に対しての質疑応答》

・ 特に質疑なし

《説明全体に対しての質疑応答・意見交換》

・ 町内会は行政の下請けではない。町内会長もボランティアであり、行政からの回覧物
が増えたり、行事が増えると負担となり困る。

今回は議論のきっかけであり、地域組織のあり方等については今後みなさんと一緒
になって議論する中で検討していきたい。

・ 組織化をしないこともあり得るのか。少子高齢化が進み、町内会における役員のなり
手がいなく、これ以上役が増えると困る。ボランティアには限界がありやれる人がい
ない。組織を減らし、役員を減らしてほしい。

・ 赤い羽根の募金は強制ではないはずが強制となっている。町内会で納入した上に、街
頭募金で金額が集まらない場合は、役員が負担し二重に納めている。2年後には人も
減り、町内会を抜ける人も増えていくと思われるので、地域の負担を減らすことを考
えてほしい。

・ 組織の必要性やその背景をしっかりと説明してほしい。町内会における引継ぎがなかつ
たため、今回の話は初めて耳にした。行政の押し付けにとらえられてしまう。

本日いただいたご意見は非常に重要であると受け止めている。協働のまちづくりは、
町内会の希薄化により助け合いが必要となっていることが原点である。地域内の各種
団体等によってバラバラに行ってきたものを、これからは心と心をつなげ気楽に集ま
り語り合い、協働して取り組める場が必要であると考えている。そうした取り組みを通じ
て一人でも多くの方に地域を想う気持ちを持っていただきたいというのが行政とし
ての願いである。

《閉 会》